

3-8 受験にあたって		進路の計画				
はじめの活動	1. 題材設定の理由	この時期の3年生は、個人懇談で自分の進路希望先を決定し、その実現に向けて、さまざまな努力を続けている。また、校内では、文化発表会や合唱祭、「3年生と語る会」など、この1年をしめくくる行事が行われている学校もある。	活動のねらい	活 動 の 内 容	指導・援助の留意点	資料等
	そうした中で、多くの生徒は入試や進路先に対して不安を抱き、精神的に不安定であったり、深夜に及ぶ家庭学習などで体調を崩したりする。 そこで、学級での話し合いや調べ学習などを通して、自分や仲間の置かれている状況を的確に見つめさせ、自分の進路実現と、ともに歩んできた仲間との生活の両立をはかりながら、心身ともによい状態で受験に臨めるようにしていきたい。	・仲間も、自分と同じように悩みをもっているのだと知ることができる。 ◎受験を間近に控えた今の気持ちを発表する。 ・わたしも○○君と同じように不安でしかないが。 ・今、何をやればいいのかわからない。 ・不合格だったらどうしようか心配だ。				
中心的活动	2. 指導のねらい	学級の中で、お互いの進路に対する不安や悩みを語り合い、受験当日までの生活、健康管理、受験の準備などについての理解を深めることで、自分で決めた進路の実現に向けて、最後まで精一杯努力しようとする心構えをより強くもたせる。	活動のねらい	活 動 の 内 容	指導・援助の留意点	資料等
	3. 指導計画（全1時間）					
まとめの活動	事前	・生活記録や健康観察、個別相談などを通して、生徒の心身の状態などを把握しておく。また、前年度の入試情報などを整理し、紹介できるようにしておく。	中心的活动	活 動 の 内 容	指導・援助の留意点	資料等
	本時	・誰もがもっている進路に対する不安を語り合い、万全の状態受験できる心構えを育てる。				
	事後	・生徒観察を引き続き行い、随時、相談会をもつ。また、面接練習の指導・援助を行う。				
まとめの活動	＜説話例1＞	■冬来たりなば、春遠からずや	まとめの活動	活 動 の 内 容	指導・援助の留意点	資料等
	＜説話例2＞	■道は決して一つではない。どんな結果でも受け入れる勇気をもとう。				
まとめの活動			まとめの活動	活 動 の 内 容	指導・援助の留意点	資料等

＜説話例1＞

■冬来たりなば、春遠からずや

「冬来たりなば、春遠からずや」これは、パーシー・ビッシュ・シェリーというイギリスの詩人の言葉です。この言葉は、厳しい冬が来たら、暖かい春の訪れはもう間近だという意味です。あなたたちに置き換えるならば、『受験を間近に控え、今はさまざまな不安や悩みを抱いているが、あきらめず努力すれば、季節が確実にかわっていくのと同じように状況は好転し、夢が実現することでしょう。』ということです。3年生になり、進路実現に向けての日々の努力や悩んできたことを忘れずに、自分を信じて、よりよいコンディションで受験に臨みましょう。

＜説話例2＞

■道は決して一つではない。どんな結果でも受け入れる勇気をもとう。

試験である以上、結果は出ます。しかし、それは試験当日だけで決まると考えないことです。むしろ、それまでの努力や、自己理解の延長線上にあると言えます。その意味から、周囲の助言をもとにして自分で決定した希望先に自信をもって、臨みましょう。また、目標に到達する道筋は決して一つではありません。もし、残念な結果であっても、勇気をもって、それを受け入れ、次の方法を考えることが大切です。